

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：放射線科	
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）	
<input checked="" type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究	
<input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究	
<input type="checkbox"/> 3. 『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究	
<input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究	
<input type="checkbox"/> 5. その他	
研究期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日	
研究課題名： 歯周組織再生療法における骨再生のMRIによる画像化の試み	
研究課題の概要及び成果： 歯周組織再生療法における骨再生の診断は、従来ではデンタルエックス線検査やCBCTを含めたCT検査による画像を用いていた。骨再生は定期的に縦断的に把握することが必要であるが、エックス線被曝を無視することはできない。 このたび、放射線被曝のないMRI検査を歯や骨に応用し、画像化することに成功した。歯や骨にはMRIの対象である水素原子核を含む水は微量であるが存在する。その水は周囲の構造物と近く、T2時間が短い。従来の方法では、TEがT2時間より長かったため、MRIでの信号はほぼ0であった。今回の手研究では、TEを0.000016秒に設定し、歯や骨のT2時間より短くできたため、画像化に成功した。	
上記概要・成果に関連する図表等	
	放射線被曝のないMRI検査による「デンタル画像」解像度は低いものの、埋伏智歯、第二大臼歯の遠心の歯石と根尖病巣が描出されている。
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）	
<input type="checkbox"/> 関連がある	
<input checked="" type="checkbox"/> 関連はない	

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：予防歯科

第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）

- 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究
- 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究
- 3. 「『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究
- 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究
- 5. その他

研究期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

研究課題名：糖尿病治療により歯周状態改善をもたらす全身の代謝変化の探索

研究課題の概要及び成果：

29人の2型糖尿病患者に対し、2週間の入院下での短期集中的糖尿病治療を行い、治療前後に生化学検査値、歯周組織炎症程度を示す指標であるPISAなどの値を測定した。PISA改善群、非改善群に分け、PISAの変化量と相関する臨床指標を探索した。

その結果、糖尿病治療により、2週間の血糖コントロール状態を反映するグリコアルブミンだけでなく、歯周病の炎症程度を示すPISAも改善した。そして、PISAの改善度の大小により被験者を2群に分け比較、解析を行ったところ、PISAが大きく改善した群では、糖尿病治療前のインスリン分泌能を示すCペプチドが有意に高値を示し、かつ糖尿病性神経障害の指標であるCVRRや末梢血管障害の指標であるABIが有意に高値（低い重症度）を示した。このことから、糖尿病患者において歯周病が大きく改善する群には、インスリン分泌能が高く、糖尿病性神経障害や末梢血管障害の重症度が低い特徴があることが明らかになった。

上記概要・成果に関連する図表等

Fig. 1

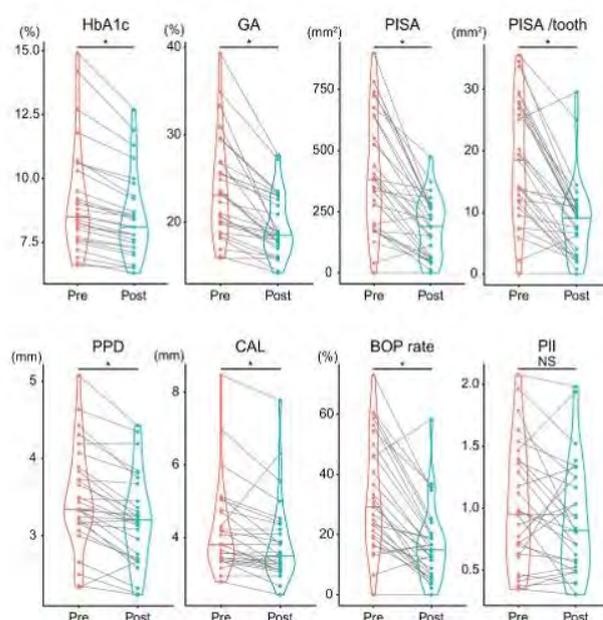


Fig. 1. 2 型糖尿病患者 29 名における血糖コントロール前後での臨床指標の変化。ドットは患者の値を示し、各個人の治療前後のデータを線で結んでいる。* $p < 0.05$ 。プロットの中央線は中央値を示す。

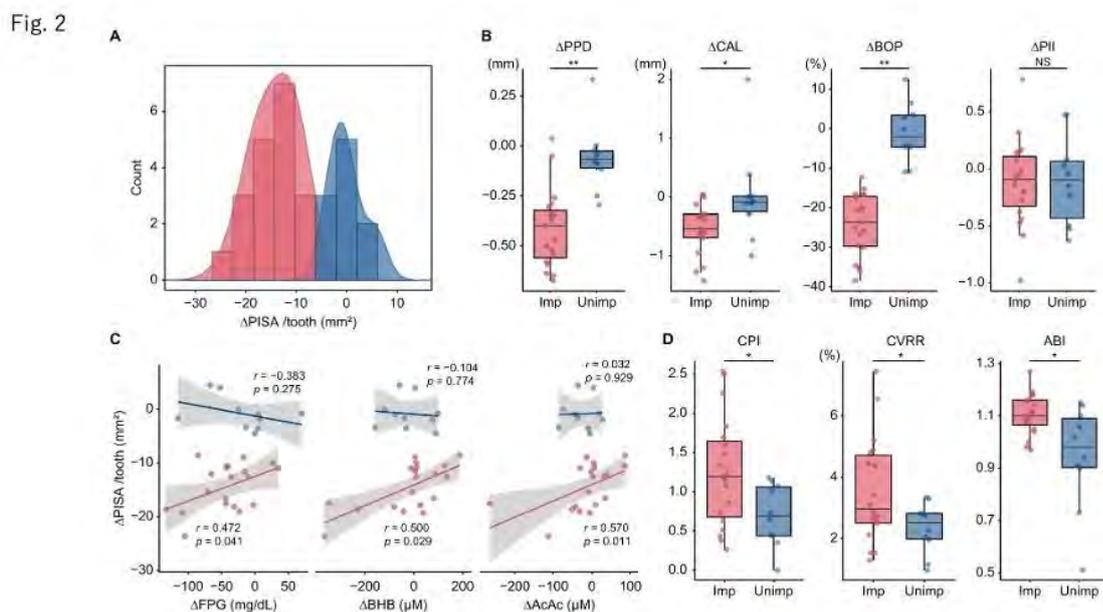


Fig. 2. PISA 改善群と非改善群の臨床的特徴。(A) 2 型糖尿病患者 29 名における 1 歯あたりの PISA の変化を示すヒストグラムでは、二峰性の分布が認められ、患者は PISA 改善群 ($< -5.0 \text{ mm}^2$) と非改善群 ($\geq -5.0 \text{ mm}^2$) に分けられた。(B) PISA 改善群と非改善群における歯周病指標の変化量の差異。* $p < 0.05$ 、** $p < 0.01$ 。(C) PISA 改善群では、1 歯あたりの PISA の変化量と全身指標との間に正の相関が認められた。(D) PISA 改善群と非改善群では、血糖コントロール治療前の臨床指標の値に有意差が認められた。* $p < 0.05$ 。

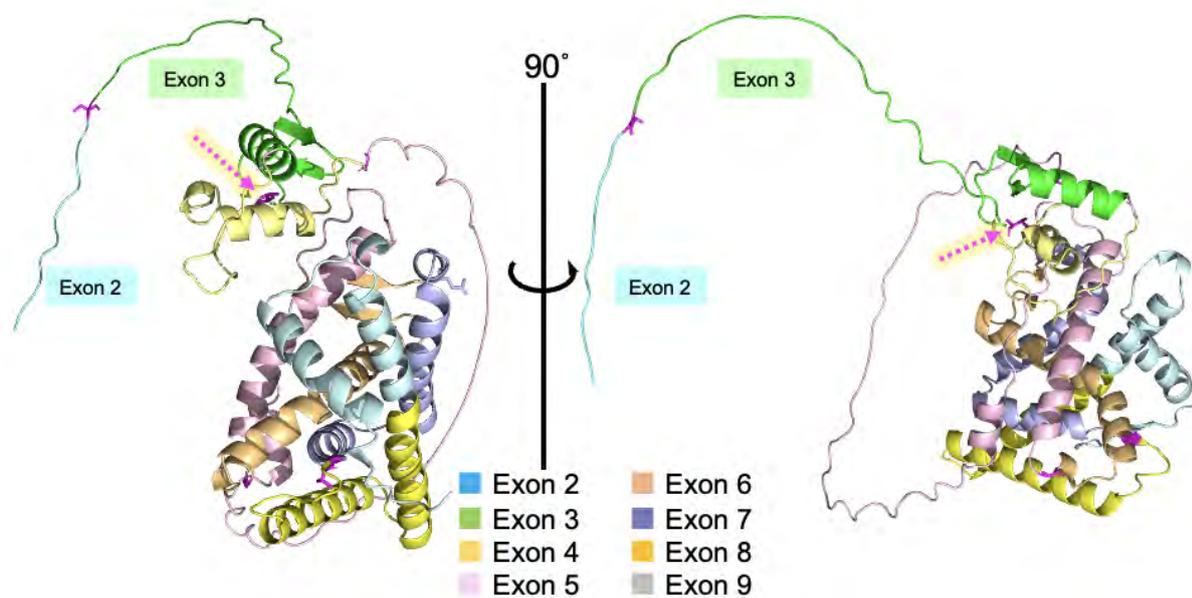
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記の BOX のいずれかにチェックを付してください。(塗りつぶし可)

- 関連がある
 関連はない

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔補綴科
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2019年1月～2024年12月
研究課題名：口腔顔面領域の慢性疼痛に対する遺伝的リスク予知法の開発
研究課題の概要及び成果： 顎関節症による疼痛は、顎関節部や咀嚼筋部などに生じ、患者の生活の質を悪化させる要因の一つである。その病態形成には器質的な異常のみならず多因子の関与が示唆されており、発症機序には不明な点が多いが、近年ゲノムワイド関連解析により、慢性顎関節症患者に関連する遺伝子が報告された。一方で、遺伝子検査においては顎関節部の画像解析による器質的な問題（関節円板転位や下顎頭骨変化など）が考慮がされずに調査が行われている。 今回、大阪大学歯学部附属病院に顎関節症を主訴に来院された患者約260名に対してMRI撮像、ゲノム採取を行い、顎関節内障ならびに下顎頭退行性骨変化の影響を調整した上で、疼痛関連遺伝子が与える影響について多変量解析を実施し、検討を行なった。その結果、糖質コルチコイドレセプターをコードする <i>NR3C1</i> 遺伝子のイントロン領域に存在する2か所の SNP (rs9324918, rs33389) における変異が顎関節症の疼痛に関与する可能性が明らかとなった。rs9324918 は <i>in silico</i> 解析によりスプライシング部位に存在することが予測されたため、mRNA のスプライシング異常が顎関節症の病態に影響を及ぼす可能性も示唆された。

上記概要・成果に関連する図表等



当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。(塗りつぶし可)

- 関連がある
- 関連はない

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：小児歯科
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 「『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2023年1月23日～
研究課題名：低ホスファターゼ症患者の歯科症状に関する全国調査
研究課題の概要及び成果：低ホスファターゼ症（Hypophosphatasia: HPP）は、乳歯早期脱落を認める骨系統疾患である。疾患の認知度が向上し、多くのHPP患者が歯科から診断につながるようになってくるにつれ、矯正治療のニーズが高まってきたが、矯正治療法は確立されていない。また、全身の治療法が承認され、重症型HPP患者の生命予後が大幅に改善され、歯科を受診できるようになったが、歯科的問題点は明らかにされておらず、根本的な歯科的対応法も確立されていないという課題がある。そこで、歯科を有する総合病院609施設を対象として、HPP患者の歯列咬合に焦点を当てた全国歯科実態調査を実施した。30施設から103症例のHPP患者情報を収集した。HPP患者は、エナメル質形成不全、歯列咬合の異常、口腔習癖、摂食嚥下障害を伴うことが解明された。特に重症型のHPP患者では、それらの歯科的問題点も重度であることが明らかとなった（図）。本研究結果により、医科と連携したHPP患者1人ひとりの症状に応じた歯科治療法の確立につながることを期待される。また、小児歯科医と矯正歯科医が協力して、HPP患者の歯列咬合の問題を解決することの重要性が示された。
上記概要・成果に関連する図表等  <p>（図）重症型HPP患者の口腔内写真</p>
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 関連がある <input checked="" type="checkbox"/> 関連はない

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：矯正科	
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）	
<input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 「『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他	
研究期間：2016年4月～	
研究課題名：顎顔面口腔領域に認められる先天性疾患の原因遺伝子の探索	
<p>研究課題の概要及び成果：口唇口蓋裂を始めとする顎顔面形成不全症は不正咬合の原因となり歯科矯正治療の臨床現場において頻繁に遭遇する疾患である。近年の Genome wide association study (GWAS)研究等により顎顔面形成不全症について多くの感受性遺伝子が同定されているが、未だに原因不明の稀少・未診断疾患が多く存在する。本年度は当診療室を訪れるまでは未診断であった希少疾患「BWCFF症候群」による口唇口蓋裂にアクチン分子の異常動態が関与することを解明し論文発表を行った。更に USP9X 関連症候群の新規病的バリエーションも同定しについて多施設共同研究の論文発表を行った。</p>	
<p>上記概要・成果に関連する図表等</p> <div data-bbox="146 1285 785 1527" data-label="Image"> <p>USP9X (脱ユビキチン酵素) 遺伝子の新規病的変異同定 (IRUDと歯学部バイオインフォマティクスユニットとの共同研究)</p> <p>変異蛋白構造予測</p> <p>Nagata N et al. Hum Genome Var. 2024 May.</p> </div>	<div data-bbox="785 1164 1428 1630" data-label="Image"> <p>アクチン遺伝子の病的変異同定 (IRUDと広島大学両生類学センターとの共同研究)</p> <p>野生型アクチン分子 (緑色) 変異型アクチン分子 (緑色)</p> <p>図1. 変異型アクチン分子は細胞接着部位に局在できない事を発見</p> <p>野生型 アフリカツメガエル 疾患モデル アフリカツメガエル</p> <p>図2. Baraitser-Winter cerebrofrontofacial (BWCFF)症候群のモデル動物を用いた解析</p> <p>Tsujimoto T et al. Hum Mol Genet. 2024 Nov.</p> </div>
<p>当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）</p> <input type="checkbox"/> 関連がある <input checked="" type="checkbox"/> 関連はない	

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔外科2

第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）

- 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究
- 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究
- 3. 『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究
- 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究
- 5. その他

研究期間：2023年5月22日～2025年3月31日

研究課題名：

口腔外科領域手術後の知覚変化が顎口腔機能に及ぼす影響についての臨床研究

研究課題の概要及び成果：

舌がん患者における術前を基準にした術後の舌知覚変化が顎口腔機能に及ぼす影響について研究を行っている。舌がんにて舌切除を施行した44例を対象に、舌知覚は電気刺激装置を用いた舌知覚閾値、顎口腔機能は、舌機能（舌運動・舌圧）、嚥下機能（水飲み）、咀嚼機能（咬合力・咀嚼力）、構音機能（音声認識ソフトウェアを用いた発語明瞭度）を術前、術後1か月、3か月、6か月、12か月目に評価した。その結果、舌切除し前腕遊離皮弁再建手術を行った症例においては、健側の残側舌の知覚は、術後1か月目知覚は顕著に低下するも、術後経時的に改善を示し、顎口腔機能のうち咬合力と発語明瞭度は舌知覚変化と同様の変化を示した（図1）。特に、健側の舌尖と舌縁の知覚の変化は、発語明瞭度の変化と有意な強い相関が認められた（図2）。以上のことから、本研究において、舌切除し皮弁再建手術を施行した症例の健側の残存舌の知覚変化は、咬合力と構音機能に影響を及ぼす可能性が新たな知見として得られた。

上記概要・成果に関連する図表等

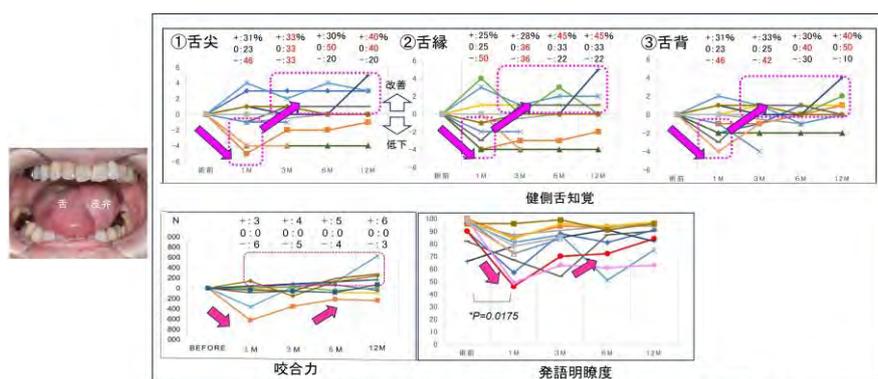


図1: 舌切除・前腕遊離皮弁症例における舌知覚と顎口腔機能と関連

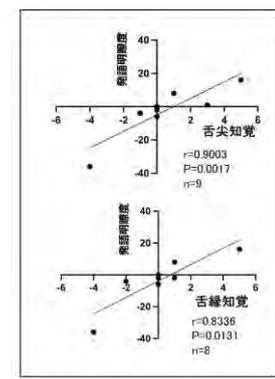


図2: 舌知覚と発語明瞭度変化との相関関係

当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）

- 関連がある
- 関連はない

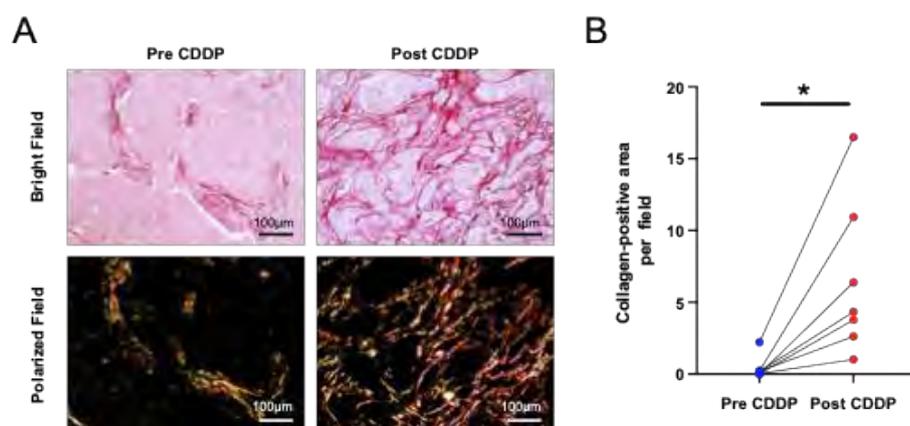
令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔外科2
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2019年3月27日～2024年2月28日、2024年5月13日～2029年3月31日
研究課題名：顎口腔腫瘍および前癌病変の病態進行における分子メカニズムの解明
研究課題の概要及び成果： 【概要】 顎口腔領域においては口腔扁平上皮癌をはじめ、前癌病変を含む様々な腫瘍性病変が発生し、周囲組織への浸潤や他臓器への転移など様々な病態を呈し、炎症性病変との鑑別を要する。しかしながら、それらの病態進行を制御する分子メカニズムは未だ明らかにされていない。 本研究では生検時および手術時の臨床病理検体（パラフィンブロック）を用いてDNAやRNA、タンパク質を回収、マイクロアレイ解析などの網羅的解析やPCR法やWestern-blot法などでの特定遺伝子やタンパク質に関する解析を行う。免疫組織学的にも評価、解析を行い、これにより顎口腔腫瘍等の病態進行における分子メカニズムの詳細を明らかにすることにより、顎口腔腫瘍の新たな治療法の開発を目指す。 【成果】 現在、パラフィンブロックを用いて、DNA、RNAを回収し解析中である。また、免疫組織学的な評価も行い、一定の成果を得たため、下記英文雑誌で発表した。発表内容としては、2011年から2019年の間で術前化学療法を行った患者の生検時および手術時のパラフィンブロックを用いた組織学的検討（Picrosirius Red 染色）により、化学療法の前後で癌細胞周囲組織の線維化（デスモプラジア様変化）が顕著に認められたことを報告した。 Junya Nishimura, Yoshihiro Morita*, Ayano Tobe-Nishimoto, Yukiko Kitahira, Shun Takayama, Satoko Kishimoto, Yuka Matsumiya-Matsumoto, Akinori Takeshita, Kazuhide Matsunaga, Tomoaki Imai, Narikazu Uzawa, CDDP-induced desmoplasia-like changes in oral cancer tissues are related to SASP-related factors induced by the senescence of cancer cells. <i>International Immunopharmacology</i> . 136, 30 July 2024, 112377.

上記概要・成果に関連する図表等
表（患者一覧）

Age	Gender	Region	Diagnosis	TNM	Therapeutic Effect
62	Female	tongue	scc	T4aN0M0	Grade3
58	Female	tongue	scc	T2N1M0	Grade2
71	Male	maxilla	scc	T3N1M0	unknown
56	Male	maxillary sinus	scc	T3N1M0	Grade2
68	Male	maxillary sinus	scc	T2N0M0	Grade2
73	Male	maxillary sinus	scc	T2N1M0	Grade1
71	Male	buccal mucosa	scc	T4N0M0	Grade2

図 (Picrosirius Red 染色)



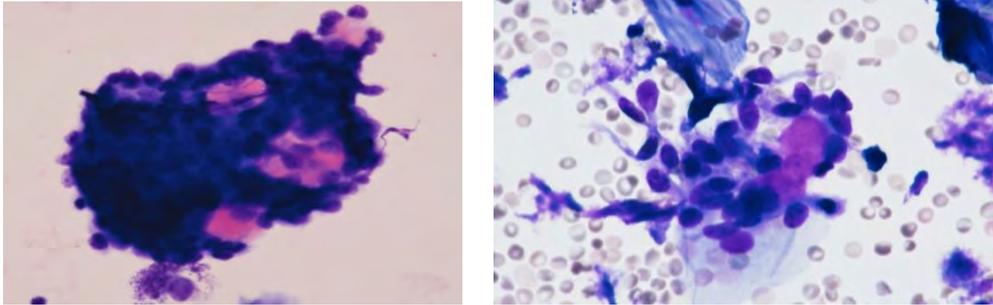
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。(塗りつぶし可)

- 関連がある
- 関連はない

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：歯科麻酔科
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2024年7月18日～2029年5月31日
研究課題名：鎮静管理困難であった障害者についての後方視的研究
研究課題の概要及び成果： <p>本研究は、静脈内鎮静管理を適応したものの、鎮静管理では治療困難であったために全身麻酔管理に変更した障害者について、治療困難であった有害事象（体動や気道閉塞等）や患者背景（障害の内容や、年齢や体格、必要な治療内容等）を調査し、鎮静管理で治療可能であった障害者と比較することで、静脈内鎮静管理が困難になる要因を明らかにし、障害者の静脈内鎮静管理を適応できるかの判断に役立てることを目指して実施した。</p> <p>2021年4月～2024年3月に大阪大学歯学部附属病院において歯科治療のための全身麻酔を行った患者151名のうち、鎮静管理が困難だった既往のある障害者10名を対象とし、鎮静管理が可能であった障害者31名を対照群として比較した。静脈内鎮静管理で治療困難となった有害事象や処置内容に差は見られなかった。障害内容を含めた患者背景にも差は見られなかったが、最も重度の知的障害者が取得する障害者手帳である療育手帳Aの取得割合が、静脈内鎮静管理困難であった患者群で、やや高い傾向があった。ただし、対象となる症例数が不足しているため、引き続き検討が必要である。</p> <p>障害者の静脈内鎮静管理を検討する際に、患者背景や治療内容から鎮静管理の可否を予測することは難しいと考えられた。しかし、知的障害者で、療育手帳Aを取得するほどの重度障害がある患者は、鎮静管理を適応できる場合もあるものの、管理困難になる可能性も想定すべきであると考えられる。</p>
上記概要・成果に関連する図表等
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 関連がある <input checked="" type="checkbox"/> 関連はない

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：検査部
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2023年5月29日～2028年2月28日
研究課題名：病理学的検査における細胞診断と組織診断との比較検討
研究課題の概要及び成果：唾液腺腫瘍の細胞診においては、ギムザ染色による異染性が鑑別に有用である。腺様嚢胞癌の粘液様物質や、多形腺腫の軟骨粘液腫様基質は赤紫色に染まる異染性を示すが、粘表皮癌からの上皮性粘液は異染性を呈さない。ギムザ染色は標本を乾燥固定させるのが基本であるが、我々は手技の簡便な湿度固定からギムザ染色作製を試み、診断に役立てることが可能かどうかの検討を行った。 湿固定検体より作製したギムザ染色標本において、腺様嚢胞癌（組織診にて確認）の粘液様物質を確認できることが分かった。この方法は唾液腺腫瘍の鑑別の際には組織型推定の一助となり、診断精度の向上に貢献できると考えられた。
上記概要・成果に関連する図表等

当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 関連がある <input checked="" type="checkbox"/> 関連はない

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：口腔総合診療部
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 「『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2024年4月～継続中
研究課題名： 2型糖尿病に起因した口腔内環境変化および唾液組成変化のメカニズム解明
研究課題の概要及び成果： 糖尿病患者におけるう蝕リスクの上昇に関してそのメカニズムを解明するため2型糖尿病モデルラットを用いた血管および血流障害評価及び糖化架橋合成阻害による組織の評価を血管鋳型法および免疫組織化学染色法を用いて行っている。今年度の進捗により、高血糖状態の持続による唾液腺および筋線維支配血管の状態の変化を確認しており、それに対して糖化架橋合成阻害剤による影響に関して分析化学的、形態学的見地から効率よく誘導する条件を検討している。 糖尿病患者の唾液組成変化やそれに伴う政情の変化に関するメカニズムを解明し、う蝕罹患リスクをはじめとした口腔周囲組織への影響を中心に研究を進める。将来的には糖尿病におけるう蝕リスク軽減を目指した探索を行い将来的な臨床応用への手がかりとしていく予定である。
上記概要・成果に関連する図表等
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 関連がある <input checked="" type="checkbox"/> 関連はない

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：顎口腔機能治療部																
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 「『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他																
研究期間：2022年3月25日～2026年3月31日																
研究課題名：咳嗽音（ムセ）の音響分析について																
研究課題の概要及び成果：咳嗽は、声帯下の呼気を瞬間的に開放する口腔機能のひとつであり、誤嚥物を喀出するための防御機構である。咳嗽は乾性咳嗽と、湿性咳嗽に分類される。湿性咳嗽は、咳嗽時に主気管に分泌液や痰が存在する際に起こる現象である。湿性咳嗽は、主気管内に唾液などの誤嚥物が喀出されずに残っている場合や誤嚥によって主気管が炎症を起こしている場合に起こるとされている。誤嚥をしていたとしても乾性咳嗽であれば、本人の咳反射・喀出力によって誤嚥物は喀出できている可能性が高い。すなわち、咳嗽の質では、侵襲の大きさに関わらず、宿主の抵抗力で喀出・処理ができていないかが反映される可能性がある。本研究では、対象者に対し、嚥下内視鏡検査を行い誤嚥の有無を評価し、同日に誘発咳嗽を記録し、咳嗽音が湿性か乾性かを評価した。誤嚥の有無と湿性咳嗽についてフィッシャーの正確確立検定を実施したところ、有意な関連が示された（ $P < 0.001$ ）。																
上記概要・成果に関連する図表等																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>内視鏡検査での 誤嚥なし</th> <th>内視鏡検査での 誤嚥あり</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>乾性咳嗽</td> <td>32</td> <td>5</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>湿性咳嗽</td> <td>9</td> <td>14</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>41</td> <td>19</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>フィッシャーの正確確立検定 $p < 0.001$</p>		内視鏡検査での 誤嚥なし	内視鏡検査での 誤嚥あり	計	乾性咳嗽	32	5	37	湿性咳嗽	9	14	23	合計	41	19	60
	内視鏡検査での 誤嚥なし	内視鏡検査での 誤嚥あり	計													
乾性咳嗽	32	5	37													
湿性咳嗽	9	14	23													
合計	41	19	60													
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 関連がある <input checked="" type="checkbox"/> 関連はない																

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：障害者歯科治療部																		
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）																		
<input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他																		
研究期間：2023年6月30日 ～ 2028年3月31日																		
研究課題名：一側性難聴者の歯科受診に関する実態調査																		
<p>研究課題の概要及び成果：一側性難聴者は歯科受診時に聞こえの問題で困難を感じている。本研究では、一側性難聴当事者会員とウェブサイト閲覧者を対象にWebアンケートを行い、378名（20～60代が中心、女性274名、男性92名）から回答を得た。右耳難聴220名、左耳153名で、軽度～中等度67名、高度～重度130名、全く聞こえない165名であった。希望する対応として、「ゆっくり・はっきり・大きな声で話す」「周囲の音を減らす」「呼び出し番号表示」「静かな環境」「聞こえる側から話す」「文字やディスプレイで金額を表示する」などが多く挙げられ、自由記載には「難聴への知識と理解」「問診時の難聴の確認」「機械を止めて話す」「個室対応」などの要望があった。これらの結果から、静かな環境づくりや難聴側を意識した声かけ、視覚情報の提供が重要であり、一側性難聴であることを事前に把握してスタッフ間で共有することで、患者の安心感につながることを示唆された。</p>																		
上記概要・成果に関連する図表等																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>対応策</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>聞こえる側から話す</td> <td>258</td> </tr> <tr> <td>静かな環境で治療する</td> <td>149</td> </tr> <tr> <td>治療前に治療の手順を説明する</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>視覚的な資料を使いながら話す</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>個室で治療する</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>治療中の指示はジェスチャーもあわせる</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>椅子をおこして向かい合ってから話す</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>治療中ではなく、直後に説明する</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table>	対応策	回数	聞こえる側から話す	258	静かな環境で治療する	149	治療前に治療の手順を説明する	111	視覚的な資料を使いながら話す	99	個室で治療する	91	治療中の指示はジェスチャーもあわせる	76	椅子をおこして向かい合ってから話す	65	治療中ではなく、直後に説明する	51
対応策	回数																	
聞こえる側から話す	258																	
静かな環境で治療する	149																	
治療前に治療の手順を説明する	111																	
視覚的な資料を使いながら話す	99																	
個室で治療する	91																	
治療中の指示はジェスチャーもあわせる	76																	
椅子をおこして向かい合ってから話す	65																	
治療中ではなく、直後に説明する	51																	
<p>図 歯科受診のときに、あれば良いと思う対応</p>																		
<p>当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）</p>																		
<input type="checkbox"/> 関連がある <input checked="" type="checkbox"/> 関連はない																		

令和6年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：薬剤部
第4期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 1. 「歯科再生・再建医療拠点形成による先進的歯科医療の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 2. 「オーラルビッグデータ管理体制の整備」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 3. 『口の難病』バイオリソースの整備と活用支援の推進」に関する臨床研究 <input type="checkbox"/> 4. 「歯科医学臨床教育の質保証」に関する臨床研究 <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：2024/2/6～2028/3/31
研究課題名： 歯科領域における抗菌薬適正使用に伴う網羅的評価
研究課題の概要及び成果：歯科領域における抗菌薬の使用に関しては、「歯性感染症ガイドライン」や「術後感染予防抗菌薬適正使用ガイドライン」「感染性心内膜炎の予防と治療に関するガイドライン」が挙げられる。しかし、その記載には推奨グレードの低い記載も多く存在し、これまで慣習的に抗菌薬を使用してきた歯科領域に浸透しない原因の一つとして考えられる。当院においては、各種ガイドラインに準拠して抗菌薬を使用しており、ここ数年で使用する薬剤が変化している。そこで本研究では、手術や処置後あるいは歯性感染症に使用する抗菌薬がその後の感染や検出される菌に与える影響を、後ろ向きに検証し、実地臨床におけるガイドラインの適応について考察する。現在データの抽出が終了し、カルテ情報から抽出データの確認と抽出できないデータの補填を行っている。
上記概要・成果に関連する図表等
当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可） <input type="checkbox"/> 関連がある <input checked="" type="checkbox"/> 関連はない